

町民参加型ワークショップ

ようろう未来会議 実施報告書

【開催日時】

第1回 令和7年6月21日（土） 13:30～

第2回 令和7年7月 5日（土） 13:30～

第3回 令和7年7月19日（土） 13:30～

場所：養老町役場 4階大会議室

養老町

I. ようろう未来会議 開催概要

(1) 開催概要

	開催日時・場所	テーマ
第1回	令和7年6月21日(土) 13:30~15:30 養老町役場4階 大会議室	<ul style="list-style-type: none">➤ 開会の挨拶➤ ようろう未来会議の開催趣旨説明➤ 養老町まちづくりアンケートの結果報告➤ まちづくりの課題➤ グループディスカッション①<ul style="list-style-type: none">・自己紹介・テーマを2つ決める・テーマ①について話し合う・話し合った内容をまとめる➤ 閉会の挨拶
第2回	令和7年7月5日(土) 13:30~15:30 養老町役場4階 大会議室	<ul style="list-style-type: none">➤ 開会の挨拶➤ グループディスカッション①<ul style="list-style-type: none">・前回の振り返り・発表に向けたまとめと準備➤ グループ発表➤ グループディスカッション②<ul style="list-style-type: none">・テーマ②について話し合う➤ 閉会の挨拶
第3回	令和7年7月19日(土) 13:30~15:30 養老町役場4階 大会議室	<ul style="list-style-type: none">➤ 開会の挨拶➤ グループディスカッション②<ul style="list-style-type: none">・テーマ②について話し合う・話し合った内容をまとめる・発表に向けたまとめと準備➤ グループ発表➤ 閉会の挨拶

(2) 参加者およびグループ

町内に在住、在勤または在学している人のうち、合計40名（一般26名、高校生14名）が事前申込のうえ参加し、A～Fの6グループに分かれてグループディスカッションを行った。

(3) スケジュール

第1回 ようろう未来会議（6月21日）

- 13：30 開会の挨拶
・ ようろう未来会議の開催趣旨説明
- 13：40 養老町まちづくりアンケートの結果報告
- 13：45 まちづくりの課題について
- 13：50 グループディスカッションの進め方の説明
- 13：55 自己紹介
- 14：00 グループディスカッション①
- ◆個人ワーク（5分）
 - ・ まちづくりアンケートの結果を眺める
 - ・ 「理想のまち」について付箋に書き出す
 - ◆グループワーク（15分）
 - ・ それぞれが考える「理想のまち」をみんなに共有する（模造紙に貼付）
 - ・ 「理想のまち」をグルーピングする
 - ・ グルーピングした理想のまちから、話し合うテーマを2つ決める。（模造紙に書く）
 - ◆グループワーク（20分）
 - ・ テーマ①について【現状】と【目標】を話し合い、模造紙に書き出す（箇条書きでもOK）
 - ※【現状】… テーマ①について、どう感じているか、どう思うか
 - ※【目標】… 現状に対して、どんな姿になると良いか
 - ◆個人ワーク（20分） *休憩時間を兼ねる
 - ・ 目標の実現に向けた「取り組み」について付箋に書き出す
 - ※自分たちができること、町に取り組んでほしいこと など
 - ◆グループワーク（25分）
 - ・ それぞれが考える「取り組み」をみんなに共有する（模造紙に貼付）
 - ・ 「取り組み」を整理し、グルーピングする
- 15：25 閉会の挨拶
- 15：30 解散

第2回 ようろう未来会議（7月5日）

- 13：30 開会の挨拶
・ ようろう未来会議の進め方のリマインド
- 13：35 グループディスカッション①
◆グループワーク（25分）
・ 前回の振り返り
・ 発表に向けた取りまとめ
- 14：00 グループ発表（Aグループ・Bグループ・Cグループ）
・ 1グループ5分程度の発表
- 14：30 休憩
- 14：40 グループ発表（Dグループ・Eグループ・Fグループ）
・ 1グループ5分程度の発表
- 15：00 グループディスカッション②
◆グループワーク（25分）
・ テーマ②について【現状】と【目標】を話し合い、模造紙に書き出す
（簡条書きでもOK）
※【現状】… テーマ②について、どう感じているか、どう思うか
※【目標】… 現状に対して、どんな姿になると良いか
- 15：25 閉会の挨拶
- 15：30 解散

第3回 ようろう未来会議（7月19日）

- 13：30 開会の挨拶
・ ようろう未来会議の進め方のリマインド
- 13：35 グループディスカッション②
◆グループワーク（10分）
・ 前回の振り返り
◆個人ワーク（10分）
・ 目標の実現に向けた「取り組み」について付箋に書き出す
※自分たちができること、町に取り組んでほしいこと など
◆グループワーク（40分）
・ それぞれが考える「取り組み」をみんなに共有する（模造紙に貼付）
・ 「取り組み」を整理し、グルーピングする
・ 発表に向けた取りまとめ
- 14：35 休憩
- 14：45 グループ発表
・ 1グループ5分程度の発表
- 15：25 閉会の挨拶
- 15：30 解散

Ⅱ. 実施結果（町民の声）

A グループ

理想のまち

- ・自分のまちを誇りに思うまち
- ・若者が住み続けたいと思うまち
- ・災害に強いまち

- ・子どもたちが元気に暮らすまち
- ・医療福祉が充実しているまち
- ・高齢の方も元気に活躍できるまち
- ・空家を資源とできるまち

テーマ① 自然・環境・身体にやさしいまち

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・太陽光パネル設置が増えている
- ・まちの中で草が生えて見栄えが悪い
- ・農薬の空中散布
- ・養老町民プールなくなる
- ・学校給食費が足りなくて、加工食品、輸入品が使われている
- ・空家に産廃、スクラップなどが空地に積んであり景観が悪い

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・安全に歩ける
- ・身近な健康作り
- ・太陽光パネルの適切な管理
- ・再生可能エネルギーの比率を上げる

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・町の財政を正確に知る
- ・町民一斉作業の実施、頻回な除草作業
- ・休耕地を町民農園に！シニア子育て世代の活躍
- ・親子農業体験、食育→健康
- ・環境にやさしい野菜づくり、低農薬の取組
- ・空家、空地、土地利用計画を作る
- ・滝、千歳楼付近の整備
- ・健康づくりの取組、ウォーキングコース作り
- ・プール、スポーツジムの再スタート
- ・太陽光パネル設置・管理の協議会を設置



どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・ 養老町は消滅可能性自治体となっている。2020年から2050年の若年女性減少率が64%で、今でいうお子さんがいる女性が少なくなるということで消滅可能性自治体である
- ・ インフラが老朽化し、更新時期にきている
- ・ 休耕地が増えた（農地は現状2500ha）、担い手の不足・高齢化、農業の収入だけでは生活できない、お米以外の特産品が少ない

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・ 町の行政を人任せにせず、町民全体で取り組む
- ・ 健康で文化的な最低限度の生活の前提条件となるインフラ維持整備
- ・ 農業に取り組む若い世代を増やしたい、就農支援、新規法人の参入を支援したい、お米以外の特産品を増やしたい、地消地産のUP、子供から高齢者までみんなが農を楽しむ暮らし

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・ 町財政が逼迫するならば、行政を町民全体で取り組む。職員全体がボランティア、パート介入、季節労働等、非正規で町行政をやり遂げるといった気持ちがないといけない。半農半Xも流行しており、農家も農閑期は役場職員として働ける。
- ・ 町予算をもっぱらインフラ維持に当てる(上下水道、教育などの基本的なインフラ)ことが大事。町だけではできないので、県や国に働きかける。
- ・ 農林水産省がみどりの食料戦略システムという制度を設けている。地域ぐるみで有機農業に積極的に取り組む市町村を支援して交付金を出すという制度で、養老町もぜひこの制度を利用して「オーガニックビレッジ宣言」をしてはどうか。交付金を利用して、町民みんなが農を身近に楽しむという取り組み。休耕地を活用して町民農園をスタートさせたい。例えば区画を8つに分け年間1万円という費用で、農地がないご家庭でも家庭菜園を楽しめる。
- ・ 町民が農業を学ぶ「農業塾」をスタートさせてはどうか。長年無農業に取り組んでいる農家さんをお招きし、1年を通じて塾を定期的に開催する。ここで学んだ方が家庭菜園で活かすなり、就農を目指す方も増えていくと、担い手も増えるのではないかと。育てた農産物は地域の観光スポットにおいて、慣行栽培の農作物とは差別化を図った販売をしてはどうか。観光客だけでなく、町民も養老町内の色々な所で安心安全な野菜やお米を買えたら嬉しいと主婦目線で思う。他市町では、役場で毎週水曜日に販売、こども園で送迎の時間に販売、地域の方が集まるクリニックや福祉施設で定期的に農産物を販売するミニマルシェをすることにより、地消地産はUPすると思う。養老公園が一番人が集まるので、道の駅のような一区画設けて、イベントや農産物の販売、特産品の販売をしてはどうか。
- ・ 農業を学んだ方が安定的な収入を得る一つの案として、学校給食に農産物を使ってはどうか。安定的な需要もあり、農家さんも生きがいを持って、お孫さん、お子さんの為に頑張って作ろうという気持ちが出てくるのではないかと。

B グループ

理想のまち

- ・子どもたちが活躍できる場所
- ・若者が働く場所がある

テーマ① 企業を誘致する

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・行政は企業を誘致しているのか
- ・インターチェンジができて「サラダコスモ」しか誘致していない
- ・土地を売らない人が多い
- ・第3セクターの解体は税金が使われているのか？

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・行政の取組（食肉市場等）の透明化が必要
- ・行政、議員さんなどの企業誘致の取り組みを教えてほしい

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・養老ICを活用する新たな企業を誘致する、工場団地を作る、工場誘致のハードルを下げる
- ・企業誘致の為に財政補助や開発を通りやすくする
- ・大規模な開発の際反対されることも多いので、行政のアンケート等を取り入れることによって町として皆さんの意見を取り入れる
- ・養老町が主体となって企業誘致することにより、養老町の財政に余力が生まれ、町としてさらにいろいろな取り組みができるようになる



テーマ② 観光資源を活かす（肉の駅）

どう感じているか、どう思うか(現状)

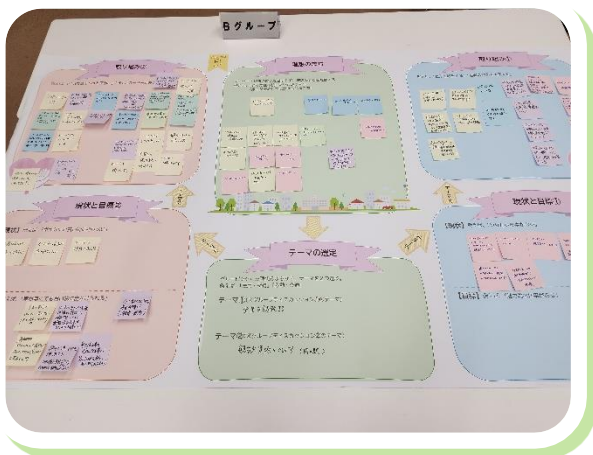
- ・観光資源は養老の滝、ひょうたん、お肉など色々あるが単発に終わっている
- ・イベントも肉祭りがあるが、単発で終わっている
- ・イベントの情報が限定的であるという意見も出た

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・子育て世代が住みたいと思う、おもしろいことをやっているまちを目指していきたい
- ・少子化についてもカバーできるのではないかな

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・情報発信、養老町のことをよく知っていただくために、ホームページでイベントの年間スケジュールを掲載する、インフルエンサー、YouTuberの方を上手く利用して養老町を発信していただく等、イベントに関する広範囲の周知をしていきたい
- ・老若男女すべての方に刺さるイベントはなかなかないので、ターゲットをわけながら事前に町民の意見を聞きながらイベントを開催できるとよい
- ・イベントと連携してオンデマンドバス、巡回バスを利用してイベント会場と結び付ける
- ・イベントが単発で情報発信が弱いので、大きなイベントを開催して養老町はこういうことをやっているまちだと情報発信してはどうか
- ・財源確保の為に養老町は少し借金してもよいのではないかな、先行投資するためには資金が必要、借金して資金を作って住みやすいまちをつくっていったらどうでしょうか
- ・3回の未来会議を行ったが、どういう意味があったのか我々にも周知していただきたい



理想のまち

- ・地域に活性力がある他市町村からうらやましいと思われるまち
- ・子供たちが生き生きと生活できるまち、子育てしやすいまち
- ・お年寄りが豊かに暮らせるまち

テーマ① 子育てしやすいまち

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・習い事(体操教室、スイミングスクール)は、大垣市や海津市へ行くしかない
- ・町民プールに子供たちを預ければスイミングや体操教室が受けれたが、閉館してしまったので、大垣や海津に向かわなきゃいけなくなっている。特に、大垣市は子育てしやすい都市宣伝もされており、負けてしまっている。

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・地域に活動拠点を設けたい。受け入れ場所が欲しい
- ・空き家や公民館で子供食堂、学童保育など子供たちを受け入れる場所を作っていく

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと(目標の実現に向けた取り組み)

- ・町民プールを復活してほしい。プール、スイミングだけでなく、2階のフロアを活用すれば習い事もできる
- ・共働きのご家庭も非常に多いので、スクールバスを巡回し学校が終わったら町民プールに向かう
- ・財政難もありスクールバスを何校も走らせるのが大変であれば、小学校を統合する。広幡小学校では昔から1クラスしかないが、人数が1桁の学年もあり、来年度から複式学級になるという現状であり、いつ廃校になってもおかしくない。近くの小学校と統合して、同級生の数も増えて仲間も増えますので、子供たちにとってもよいのではないかと。小学校を統合して巡回バスで学校が終わったら町民プールに行って、スイミングや体操教室、習字等を学ぶことができるとよい。
- ・近くの公民館や空家を活用して、学童保育ができないか。行政の情報を活用して、空家を利用していきたい。
- ・自分たちができることとしては、サークル活動、親子ふれあい活動の立ち上げ
- ・第3日曜日の家庭の日は積極的に親も子供たちと関わる日にする
- ・子供と関わる時間を持てるようにする。学校の役員、PTA、地域の交通安全委員、消防団等の行事に出ることにより子供との時間がそがれてしまうので、各地域、各学校で役員数の見直しをし、自分達の負担を軽くすることにより家庭の方にウェイトをおくことができるのではないかと。

テーマ② 地域に活性力があるまち

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・観光事業に関連して養老町には「養老豆」と「きび羊羹」という素晴らしい特産品がある

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・目標としては、犬山の城下町、長浜の黒壁スクエア、高山の古い町並みを参考にしてまちづくりを進めてはどうか

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・チャレンジショップを整備する（パローやゲンキーの駐車場に施設を作る、プールの跡地を活用する、空家を利用する）起業したい人、飲食店をやりたい人、ショップをやりたい人に格安でチャレンジできるような店舗を整備する
- ・養老町特産ブランド品があるが、なかなか全国や他の地域にPRできていない。東京駅や名古屋駅で養老特産ブランドをPRする事業をぜひ養老町にやっていただきたい。
- ・以前、養老町の飲食店でそれぞれ養老飯を作って出していた時期があり、そういった取り組みを例えば企業間を養老ブランドにして養老ベースにしてはどうか
- ・月に1回、養老町民SNSアップデーを作って、養老町をタグ付けした中から良い投稿を選出して1等、2等、3等には養老町内で使えるお食事券やきび羊羹、飛騨牛のプレゼントが当たるといような定期キャンペーンを開催してはどうか
- ・SNSの関係でインフルエンサーを活用して、養老町観光サポーターを募集し、養老町に特化したインフルエンサーができればいいと思う



D

グループ

理想のまち

- ・ 様々な立場の方が安心安全に暮らせるまち
- ・ 交通網の整備
- ・ 娯楽が楽しめる場所
- ・ 経済成長
- ・ 多くの人が幸せに暮らせる場所
- ・ 働く場所があるまち

テーマ① 自由に動けるまち

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・ 養老鉄道で大垣に出るまで一苦労、通学も大変
- ・ 高校生は車の免許を持っていないので、移動にも親の手を借りたり、公共交通機関を利用している。車無しでの生活は不便である
- ・ オンデマンドバスはあまり知られていない

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・ 養老鉄道の駅までのアクセスの向上
- ・ 養老鉄道の増便

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと (目標の実現に向けた取り組み)

- ・ 養老鉄道と大垣養老高校がコラボして動物園を作る。大垣養老高校は総合学科と農業科を併設している高校であり多くの動物もいて、PRの為に広告を作れる生徒、動画を作れる生徒もいる。他にも食品科学科もあり、お越しになった皆様が様々な商品をご購入いただくことも可能。最寄り駅の烏江駅から高校までは少し離れているので、オンデマンドバスを利用すると広報活動にもつながる。特別な切符やオリジナルグッズの販売で、養老鉄道、オンデマンドバス、高校の魅力・知名度アップにもつながる。
- ・ 養老鉄道の運賃回収方法の改善、無人駅をなくしてほしい (確実に運賃を回収する)



テーマ② 働く場所があるまち

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・ 高校生の就職は、現状は多くが町外である
- ・ 企業が養老町に少ない
- ・ 高校生は自分のまちで働きたいが、企業がないので仕方がなく町外に行く人が多いという印象

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・ 養老に大企業を呼びたい (企業誘致、創業支援)
- ・ 雇用創出
- ・ スタートアップの場の提供
- ・ 養老女子商業跡地の利用

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと (目標の実現に向けた取り組み)

- ・ 養老に大企業を呼びたい。養老には豊富な水があり、高速道路等交通の便も良い、広い土地もある、岐阜県は日本の真ん中で立地も良く全国どこにでも行ける養老はポテンシャルが高いと思う。企業に養老の魅力をPRしたり、工業団地としての提供、養老町の緑を壊さない程度のエリアの選定を養老町に行っていただき、企業にPRするのがよいのではないか。それによって働き口も大量に増えて養老町の活性につながる
- ・ スタートアップの場を提供する。養老町にある企業は偏りがあるという意見があったので、幅広いジャンルの会社が養老にできることによって、やりたい仕事のニーズに応えられて養老町で働く人が増えるのではないか。
- ・ 具体的には廃業となった養老女子商業高校の活用はどうかという意見が出た。新しく起業する人達に校舎を提供し、その場の運営を町の人にやっていただけたらフォローアップにもつながると考える。
- ・ 働く場所が増えて、新しい企業が養老に定着すると、養老町の活性化にもつながる



E グループ

理想のまち

- ・ 仕事をする場所が増える、仕事ができるまち
- ・ 住んでいる人が充実する、誇りに思えるまち。帰ってきたいと思えるまち
- ・ 遊びにきてもらえるまち。住んでみようと思えるまち

テーマ① 経済（働く場所・機会）

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・ 高校生がバイトできるところがあまりない
- ・ 起業するにもハードルが高い（補助が薄い）
- ・ 大きな企業誘致が進んでいない
- ・ 養老鉄道の本数が少ない。朝の養老鉄道はすごく混雑している。JRとの乗り継ぎも悪い。
- ・ 養老公園観光とインフラ（鉄道）がうまく連携できていない、養老鉄道が知られていない

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・ 養老公園等におしゃれなカフェがあるといい
- ・ 個性のある飲食店を増やす。創業・雇用支援
- ・ まちづくりの団体を作ってスピーディーに進める
- ・ 朝だけでも養老鉄道の本数を増やす
- ・ SNS等を活用し養老町の魅力を発信する

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・ 養老公園までの道に高校生がプロデュースしたおしゃれなカフェがあったらいい
- ・ 起業するのにハードルが高い、補助が薄いので、企業支援、創業支援の体制を整えてほしい
- ・ 養老町も大企業を誘致してほしい（正社員として働く場が増える）
- ・ インフラの整備。養老鉄道が混雑して学生も働く人も困っている。朝だけでも増便してほしい
- ・ SNSを活用し、観光活性。観光スポットに鉄道を使えることを周知する
- ・ 若い人達のスキルやアイデアを取り入れて問題解決をする



テーマ② 観光（外から人が訪ねてくる、住みたいと思う）

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・観光に関して中途半端なところ。観光を生業としていくにも養老公園も中途半端であり、観光に関して中途半端である
- ・スピード感がない。今の時代、SNSは非常に有効な広報手段であるが、存在していない。ホームページも見にくい。世の中の人々が養老町を知る機会がどんどん減っているのではないかな

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・コミュニティバスの運用（町民参加型のルート決め）
- ・養老町を「アート」というテーマで盛り上げていく
- ・地域とアイデアをつなぎ、とりもつ「まちづくり団体」を作って進める

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・オンデマンドバスの利用者が少ない。コミュニティバスを走らせればよいのではないかな。一番最初にコミュニティバスを走らせた武蔵野市では、町民、住民に徹底的にヒアリングをして、住民全体でルートを決めてコミュニティバスを走らせたなら成功した。全国の市町村で同じようにコミュニティバスを走らせたところ、多くのまちが赤字で採算が取れず廃止となっている所が多い。養老町も町民参加型のコミュニティバスのルート決めをしていくべきではないかな。
- ・養老町には養老天命反転地という大きな観光施設がある。先日もルイヴィトンが撮影したいという話があり、世界的にも注目されている施設でもあるので、それをもとに養老町を「アートのまち」としていくのはどうでしょうか。大阪万博ではパビリオンの中に入らなくても、建築であったり、コンテナやパビリオンの壁に絵が描かれていたり、芸術を楽しむ場所でもあった。養老町もアートのまちとしていくことで新たな観光客を呼び込むことができるのではないかな。
- ・養老町は小学校や中学校の統廃合が進んでいる。養老女子商業高校も廃校になりほぼ使われていない。デザイナーズホテルにすることにより、観光地があるからホテルに泊まるのではなく、そのホテルに泊まりたいから養老町を訪れるという人が増える。養老町の新しい魅力にも気づいてくれる。その方々がSNSでどんどん発信してくれれば、養老町が広告費用にお金をかけなくても宣伝できるのではないかな。
- ・未来会議は今回3回目で終わってしまうが、こういった会をどんどん作っていったらよい。
- ・今回の会議でいいアイデアが出たのにアイデアだけで終わってしまうので、スピード感を持って進めていくには、行政ばかりに頼るのではなく、町民が、民間が自主的に活動する「まちづくり団体」を作って、町と連携して進めていくと本当に具体的になっていくのではないかな。

F グループ

理想のまち

- ・三世代（お年寄り、こども、孫）が暮らしやすいまち
- ・若い世代の人、これから住む人が暮らしやすいまち

テーマ① 買物・飲食（生活しやすい）

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・店が少ない
- ・かたよりのある
- ・場所がかぎられている、交通手段がない
- ・ファーストフード店がない

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・コンビニなどの数を増やしてほしい
- ・イオンモールのような所がほしい

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・オンデマンドバスがあるが利用しづらいので、メインとなる所をつなぐ巡回バスがあるといい
- ・豊かな自然を生かして人を呼び込めるような魅力のある町づくり
- ・養老の滝、養老公園に常時人が集まるように、魅力あるカフェやおしゃれなお店の誘致
- ・SNS、動画を利用して、魅力を発信する
- ・魅力あるものを作ること、それを宣伝することで若い世代が集まってくる



テーマ② 雇用・所得（交通も含む）

どう感じているか、どう思うか(現状)

- ・ 求人の職種が限られている
- ・ やりたい仕事が見つけれない
- ・ 働く場所が少ない

現状に対して、どんな姿になると良いか(目標)

- ・ 職を増やす為にも土地を最大活用する、空家の事業の展開
- ・ 養老町が起業のハードルを下げる
- ・ 共働きができる（リモートワーク、充実した子育て支援）
- ・ 通勤圏の交通整備

自分たちができること、町に取り組んでほしいこと（目標の実現に向けた取り組み）

- ・ 田んぼの土地を利用するにもハードルが高いので、仲介役や、法のハードルを下げる等の支援をする
- ・ 名古屋や三重にも企業はたくさんあり、働く場がある。養老町に住んでいて、高速や電車等を利用して通う為にも、養老町をより住みよいまちにしていく必要があり、その取り組みとして子育てが考えられる。共働き支援や、預かり施設を増やしたり、子育て支援のPRも増やしていったら、これからの未来に暮らしやすい養老町になっていくのではないかな

